

奈良文化女子短期大学 幼小連携ワーキンググループ 合同研究会
第28回 議事録

1. 日 時 平成23年9月17日(土) 11:00~12:50

2. 場 所 奈良文化女子短期大学 本館 5階 (第1演習室)

3. 参加者 24名

4. 内 容

(1) はじめに

①参加者 自己紹介

新規参加者：定 豊子(八尾市立山本幼稚園)

瀬角 和美(八尾市立山本幼稚園)

三好 智子(奈良市立鶴舞幼稚園)

柳田 富恵(生駒市立壱分小学校)

森本 梢(八尾市立西山本小学校)

塩坂奈々子(八尾市立西山本小学校)

井上 彰(青森県東通村幼小中一貫教育検討委員会事務局)

本学1回生：金本陽子 川口紗世 小谷久子 山口明子 山口由美子

(2) 講演「子どもの育ちと学びをつなぐカリキュラムの接続」

鳴門教育大学教職大学院 前田洋一 准教授

・幼稚園と小学校教育は違うことを前提に接続を考える。

・前田(2011)「第5章幼児教育と小学校教育の目的と構造を踏まえた接続カリキュラムの開発」

『子どもの育ちと学びをつなぐー保幼小連携WG合同研究会の取り組みを通してー』p. 52~62

・経験カリキュラムの違い

・教育方法の違い 形式陶冶と実質陶冶

・教育環境の違い

・教育のねらい

・目標方向の違い

・カリキュラムの種類

教科カリキュラムと経験カリキュラム

A R C S (注意 関連性 自信 満足感) 動機付けモデル

学びの成立は子どもに認識させることが重要である。

資料 小学一年生は学校をどう思っているか。 教職員の聞き取り

幼児教育と小学校教育の段差

・マズローの欲求5段階説

・本当に付けなければならない力とは

(3) 週案（第2次案）の提案及びフォーマットの提示

◆就学前3週目＜5歳児（2月26日（月）～3月2日（金）＞週案の提案

大和郡山市教委 前田嘉余子 指導主事

- ・小学校の先生に幼稚園教育の理解と共有のために作成した資料
- ・就学前に経験する内容を重視している。

◆「幼小接続カリキュラム就学前週案フォーマット」作成の経緯と目的

奈良文化女子短期大学 善野八千子 教授

- ・入学直後の子どもの実態の聴き取り調査（2011.4実施）から要素抽出
- ・「就学直後の課題」調査の考察（以下、1～3の既の実施されていたアンケート）
 - 奈良市教育委員会がまとめた『平成20年度文部科学省委託 幼児教育の改善・充実調査研究事業 保育や教育を共に考え、学びの基礎の充実をめざした連携体制の構築』（2009年3月）
 - 幼小連携事業委嘱校である大和郡山市立幼稚園が実施したアンケート調査（2009年6月）
 - 摂津市教育委員会が実施した就学前教育充実のためのアンケート集計結果（2010年11月）
- ・週案（第1次案）を改善し、活用していくための枠組みである。（別紙参照）

(4) 接続カリキュラム就学前3週間（第1次案）改訂及び週案（第2次案）作成

◆幼小混合3グループでのワークショップ

（模造紙に前掲の幼小接続カリキュラム就学前週案フォーマットを貼付し、書き込んでいく。）

先に提示されたフォーマットの有用性を確認しながら、「1日体験」「遊び・制作活動」「春の自然」の3グループに分かれて、『就学前第3週目』週案について具体的に討論。

活動カテゴリーを軸として、幼小合同で3グループに分かれて話し合う。

以下、グループごとの検討内容（前回の内容を引き継ぐ。）

＜第一グループ＞◆一日体験（学校ごっこ）

- ・環境の充実を考えた。
 - 学校探検の後、画用紙に絵を描いたり、字を書いたりできる環境づくりをする。
- ・ピアノを絵に描いて利用する。
- ・子どもたちのグループで役割分担をして探検をする。
- ・生活がより便利になるような環境づくりが重要

＜第二グループ＞◆遊び・制作活動

- ・就学前3週間という時期なので、鉛筆への興味をもたせる。
 - 前回までの検討事項を活用してメッセージカードづくりをする。
- ・自発活動が小学校は少ない。個人差があるので45分の時間枠にも自発活動を入れる。
- ・小学校と幼稚園がそれぞれの目標を明亜区に設定して、共に遊ぶ時間を工夫して取り入れる。

＜第三グループ＞◆春の自然

- ・環境構成のポイント「見えにくい自然の変化」へのはたらきかけ
 - 園庭の桜のつぼみがふくらんできたところに興味をもたせ、入学への思いもふくらませる。
- ・春探しで園外への散歩＜モノの援助＞出かけるときにミニ絵本や虫メガネをもって出かけるよう

にする。

- ・個人のミニ図鑑を活用させる。自然科学への確認活動、見方・考え方・扱い方の素地を養う。

※各グループからの報告や提案を受けて、前田准教授の助言

例として、蟻の絵をかく子どもへ。

「本当にそうなのか？」という保育者からの問いかけと、「確かめたい」という子どもの意欲の引き出し方。子どもに観察の視点を与える重要性。「子どもには観察の視点を促すことが大切で、幼小どちらにも共通するもの」とアドバイスされた。

今回の週案レベルの具体案の検討を重ね、“子どもの姿が見える”カリキュラムの作成をしていく。

5. 次回の予定

平成23年10月15日（土） 11:00～12:30

<参加学生の感想>

●本日は声をかけていただきありがとうございました。私は3つのうち、「遊び・制作活動」のグループに参加させていただきました。

話の内容は文房具の「のり」について、子どもの捉え方の意味を話し合っていて、文房具にも視点をおいていることにびっくりしました！

また、最後に男の先生がおっしゃっていた蟻のお話について。「本当にそうなのか？」は、私にとって、その時点で作り上げられている作品を否定されるようなイメージがあり、子どもの発想を否定する保育のタブーだと思っていました。

しかし、「本当にそうなのか」という言葉には[確認する力]や[観察力]、もっと知りたいもっと見たい[意欲]を自然に引き出す力があることがわかり、タブーだと決めつけていた考えは崩れ、保育の可能性の多さに感銘いたしました。少ない時間の中でもたくさん刺激を受けることができました。とっても良かったです。また参加したいです。

●もっともっと沢山の仲間に研究会に参加してもらえるように沢山の事学び伝えたい。

「学校ごっこ」のグループに参加したが、みなさん日頃楽しく保育されている様子が伺えて楽しかった。しかし、まだ目に見えていない幼小の壁が見えたように思う。お互いにスムーズに連携するには課題がたくさん見受けられた気がした。

●どのように遊び制作活動を考えるのか、とても勉強になった。また、ひとつの道具(のり)もなぜ指でぬるのか、指のほうが良いのかの理由など、意味があってそのように使っている。

教科書に書かれていないたくさんを知っておく必要がある。そしてそれは実際に自分で使って考えなければ分からないことだと感じた。

●ほんとに少ししか参加 出来なかったのですが、善野先生がおっしゃった通り 空気を吸うだけでも 自分の中ですごくいい時間になりました。資料もたくさん持ち帰らせていただきました。

また研究会がありましたら、ぜひ参加したいです！呼んでいただいてありがとうございました。